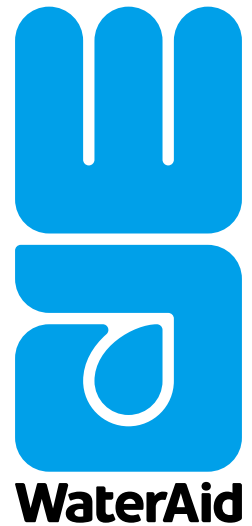


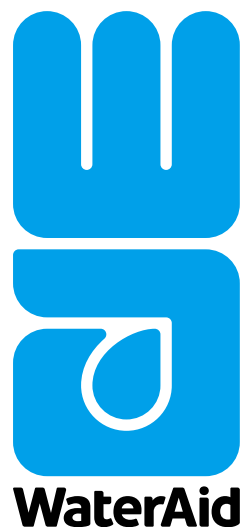
Annual Report

2020.04-2021.03

WaterAid JAPAN
 A world where everyone,
 everywhere has clean water,
 sanitation and hygiene.

特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン 年次報告書 2020.04-2021.03





特定非営利活動法人
ウォーターエイドジャパン
年次報告書 2020.04-2021.03

- 1 目次 / 清潔な水、衛生的なトイレ、適切な衛生習慣
- 3 水・衛生を世界の当たり前 / 課題、ビジョン、水・衛生はSDGs達成のカギ
- 5 持続可能なしくみを作り、「すべての人に水・衛生」を実現する
- 7 ウォーターエイドの活動国と2020年度実績
- 9-14 ウォーターエイドの新型コロナウイルス感染症対応
- 15 「すべての人に清潔な水を」を実現する「モデル」をつくる
- 17 日本の活動
- 19 アドボカシー
- 20 企業・団体との連携
- 21 2020年度会計報告
- 22 ウォーターエイドジャパンについて



水と笑顔があふれた村

マダガスカル、ツアラファンギトラ村。ここは主要道路から車でさらに1時間ほどかかる僻地の村で、かつては清潔な水へのアクセスがまったくありませんでした。命の水、それは命がけの水でもありました。当時8歳だったネニーちゃんは、水くみに行くために、片道1.5km、往復1時間の険しい道のりを1日に3往復していました。やっとの思いで水をくんできても、その水はひどく濁っていました。でも、家族が生きていくためには、それを飲むしかなかったのです。

それから数年。ようやく村で最初の給水設備を、村の人たちが協力しあって完成させることができました。蛇口から水が流れ出した瞬間、日の光にきらめく水しぶきのように、輝く笑顔が村全体にあふれました。「もう水をくむために長い道のりを歩かなくていいんです。今はとてもきれいな水が使えます。それに、水くみに行くかわりに勉強もできるんです！」そう語るネニーちゃんの表情は、未来への希望に満ちています。



給水設備の建設作業に参加した住民たち

清潔な水、衛生的なトイレ、適切な衛生習慣

この3つが
世界中のすべての人にとって当たり前のものになるように
ウォーターエイドは活動を続けていきます。

4歳の頃から水くみをしていたネニーちゃん。マダガスカルのはとんどの村と同じように、ツアラファンギトラ村でも水くみは女性や子供の仕事です。小さな女の子でさえ、毎日大半の時間を水くみに費やし、重いバケツを持って長い道のりを歩いていました。その重労働で疲れきってしまい、勉強がまったくできない日も少なくありませんでした。

みんなが力をあわせ、村で使えるようになった清潔な水。もう不衛生な水が原因で病気になることもありません。生活のための限られた収入を病気の治療に使わざるをえず、1日に1回しかお米を食べられなかった日々は過去のものとなりました。きれいな水が届いたことで、暮らしが一変したのです。人々は水をくむのではなく、生計を立てることに集中できるようになりました。子供たちは勉強に専念したり、友達と過ごす時間を思う存分楽しんでいます。

清潔な水は、命の水。人々の健康だけでなく家計も支え、毎日の生活に希望をもたらしています。



ネニーちゃん 8歳



ネニーちゃん 9歳



ネニーちゃん 11歳 (中央)



ネニーちゃん
「前はどんなに頑張って水をくんできても、虫が入っていたんです。今では学校でも水とトイレが使えます」
「今は友達と遊んだり、宿題や家事の手伝いに時間を使っています。たくさん勉強して、将来は学校の先生になりたいんです。それから、もっといろんな場所で手洗い設備やトイレが使えるようになってほしいです」

水・衛生を世界の当たり前



水・衛生の課題

水
 現在、世界では7億7,100万人が清潔な水を利用できません。安心して使える水を確保できることは、基本的な人権です。ところが、都市部から遠く離れた村や都市部のスラム、紛争や自然災害でインフラが破壊された地域では、利用できる給水設備がないことが少なくありません。そのため長い距離を歩いて水をくみに行かなくてはならず、学校に通ったり働いたりする時間が削られてしまいます。さらに、不衛生な水を飲んで病気にかかり、働けないため収入が得られないのに治療費がかさむといった悪循環で、貧困から抜け出すことが難しくなってしまいます。



トイレ
 現在、世界人口の5分の1以上にあたる17億人が適切なトイレを利用できない環境で暮らしています。そのうち4億9,400万人は野外で排泄するしかない状況に置かれています。こうした不衛生な環境で生活していると、しょっちゅう病気にかかり、生産的な仕事をすることはできません。子供が学校に通い続けるのも困難です。自宅にトイレがないと、女性や女の子たちは日が暮れるのを待ち、野外の人目につかない場所を探して用を足さなくてはなりません。その道中で嫌がらせにあたり、暴力を受けたりするおそれもあります。



手洗いなどの衛生習慣
 世界の3分の1の人々は、家庭で水と石けんを使って手洗いをする事ができません。安全な水と衛生設備を利用できるようになったとしても、そのメリットを十分に活かすには、衛生習慣の改善が不可欠です。世界銀行も、健康改善において最も費用対効果の高い施策は、衛生習慣を身につけることであると言っています。



ビジョン

すべての人々がすべての場所で、清潔な水とトイレを利用し、衛生習慣を実践できる世界

ミッション

清潔な水、衛生的なトイレ、正しい衛生習慣。健康で尊厳ある暮らしに欠かせないこの3つを届けることで、ウォーターエイドは世界で最も貧困で社会的に取り残されている人々の暮らしを改善していきます。

設立の経緯

1981年2月、「渇いた第三世界」という会議がイギリスのロンドンで開催されました。この会議をきっかけに、清潔な水や適切なトイレを利用できない多くの人々のために、今こそ活動すべきだという声が高まりました。当時、水・衛生を専門とするNGOがほとんどなかったことから、イギリスの水道事業に携わる人々の募金活動を経て、1981年7月にウォーターエイドが設立されました。

水・衛生はSDGs達成のカギ

私たちの生活に欠かせない水。その水が容易に利用できるになれば、清潔な飲料水を確保できるだけでなく、コミュニティでさまざまな好循環が生まれ、人々の生活は大幅に改善されます。



「1年に4回サイクロンが襲い、これまで水をくんでいた池が汚染されてしまいました」と話す住民(バングラデシュ)

13 気候変動に具体的な対策を

気候変動の影響により、世界各地で干ばつや洪水、サイクロンなどが頻発しています。干ばつで井戸が干上がると、人々は普段より遠くまで水くみに行かなければなりません。農作物が被害を受けて、食料が確保できず困窮することもあります。また、給水インフラやトイレが整備されていない地域で洪水が発生すると、水源が汚染され、コレラなどの命にかかわる病気がまん延するおそれがあります。気候変動に対するコミュニティのレジリエンスを高めるためには、水・衛生の対策がきわめて重要となります。

4 質の高い教育をみんなに

学校に清潔な水と適切なトイレがあるということは、子供たちがより安全かつ衛生的な環境で勉強に取り組めるということです。ところが、世界中の学校のうち31%は清潔な水を利用できず、3分の1の学校には適切なトイレがありません。世界の43%の学校には、手洗いのための水と石けんが備わっておらず、サハラ以南アフリカでは、その割合は74%にもなります。



清潔な水が自宅のそばで手に入りさえすれば、女性と女の子たちは水くみの重労働から解放されます。すべての家庭で安全な水を得られるようになれば、女性や女の子の時間を、年間1億2200万日相当、解放することができ、その時間を教育や収入を得るための活動に使うことが可能になります。月経期間中は学校を休まざるをえない、仕事に就くのが難しいといった現在の状況も、適切なトイレさえあれば、大きく変えることができます。

5 ジェンダー平等を実現しよう

持続可能なしくみを作り、「すべての人に水・衛生」を実現する



給水設備やトイレを設置したり、衛生教育を実施しても、その時だけの取り組みで終わってしまうプロジェクトでは、改善の効果を持続させることはできません。国・地域の政府、水・衛生関係機関、民間セクターが地域の水・衛生の改善に継続的に取り組んでいないために、給水設備やトイレが故障して使えなくなった、せっかく衛生習慣が普及しても長続きしないといった事象が各地で発生しています。



電気が止められ、機能していない給水タワー(モザンビーク)



壊れて使えなくなった手押しポンプ式井戸(インド)

「どこに給水設備があり、どれが稼働している、どれが壊れているのかを誰も把握していないため、政府が地域の水・衛生を改善しようにも、どこから着手すればよいかわからない」

「水・衛生関連の業務が複数の省庁にまたがっており、省庁間の調整がうまくいっていないため、別々の省庁が同じ地域に異なる給水システムを作ろうとした」

「政府が新設した給水システムの維持管理を担当する民間事業者が、きちんと水道料金を徴収しておらず、電気代を納めなかったため、電気の供給が止まり、給水システムも止まってしまった」

このような問題が、ウォーターエイドの活動地域で実際に発生しています。こうした問題を防ぎ、水・衛生サービスを持続的に提供・改善していくためには、水・衛生サービスを取り巻くさまざまな「要素」について、次のような対策を講じることが重要です。

現地政府が給水設備・トイレの設置状況や稼働状況に関するデータを収集・整理し、そのデータに基づいて、今後の給水・衛生サービスの改善計画を立てる。

複数の省庁が水・衛生を担当する場合、データを共有して水・衛生の改善に取り組む。

給水設備が壊れた場合は、まず住民が報告し、その報告を受けて派遣された技術者が修理した後、修理代の支払いが行われるという一連のしくみを構築する。

水使用料金の徴収のしくみを整備する。

上記を踏まえ、ウォーターエイドは各地で経験したさまざまな課題を分析・体系化して、右のように持続可能な水・衛生サービスに必要な要素をまとめました。



すべての人が利用でき、持続可能な水・衛生

水・衛生プロジェクトを設計する際には、まず、現地政府、水・衛生関係機関、NGOなどと共同で、対象地域の水・衛生サービスを取り巻く「要素」がどのような状況にあるかを分析します。そのうえで、判明した課題を取り除くためのプロジェクトを計画・実施します。このプロセスを通じて、現地の政府と住民が主体的に給水設備・トイレを設置し、衛生習慣を改善し、改善された状態を長期的に維持していく「しくみ」を作ります。



地方政府、中央政府、水道事業者、市民社会などのメンバーが、地域の給水サービスの要素について分析(モザンビーク・マプト)

ウォーターエイドは、このプロセスで見つけた「欠けている要素」を補うための活動に取り組んでいます。「脆弱層への対応」、「財政」、「データ・モニタリング」、「環境・水資源の保全」要素が欠けていた地域において、次のような活動を実施しました。



推計によると、世界人口の15%は何らかの障害を持って暮らしています。自宅のトイレがニーズに対応していなければ、トイレの利用に支障をきたしてしまいます。学校にアクセシブルなトイレがなければ、障害を持つ子供たちは安心して学校に通うことができません。ウォーターエイドはカンボジアで、政府による「障害インクルーシブな水・衛生ガイドライン」の策定を5年以上にわたって支援してきました。また、バングラデシュでは現地政府と連携し、障害者がアクセス可能な公衆トイレを主要都市に普及させました。



アクセシブルなトイレを利用する住民(バングラデシュ)



政府の水・衛生関連予算が給水設備の新設にばかりあてられ、維持管理に必要な資金が不足していることがあります。ウォーターエイドはタンザニアのマニャラ州ババティ県で、民間企業「eWATERpay」が運営するプリペイド式電子決済を導入し、給水設備の利用者から簡単に水利用料金を徴収できるしくみを構築しました。水の利用料を集めて得た収益は、給水設備の維持管理のほか、給水サービスの拡大にも使われています。



eWATERpayのプリペイド決済を利用して水をくむ住民(タンザニア)



ウォーターエイドは、パプアニューギニアや東ティモールなど複数の活動国で、自治体職員を対象に「mWater」の使い方を伝えるトレーニングを実施しています。このオンラインプラットフォームは、給水設備の設置場所や稼働状況、飲料水の水源、水・衛生設備を利用できる住民数、学校や医療施設までの距離などの情報を集積できます。調査で判明したデータは地図にひもづけられ、これらの情報をもとに、政策やプロジェクト内容、優先する地域などを決定できます。



mWaterを利用したデータ収集・分析のトレーニング(東ティモール)

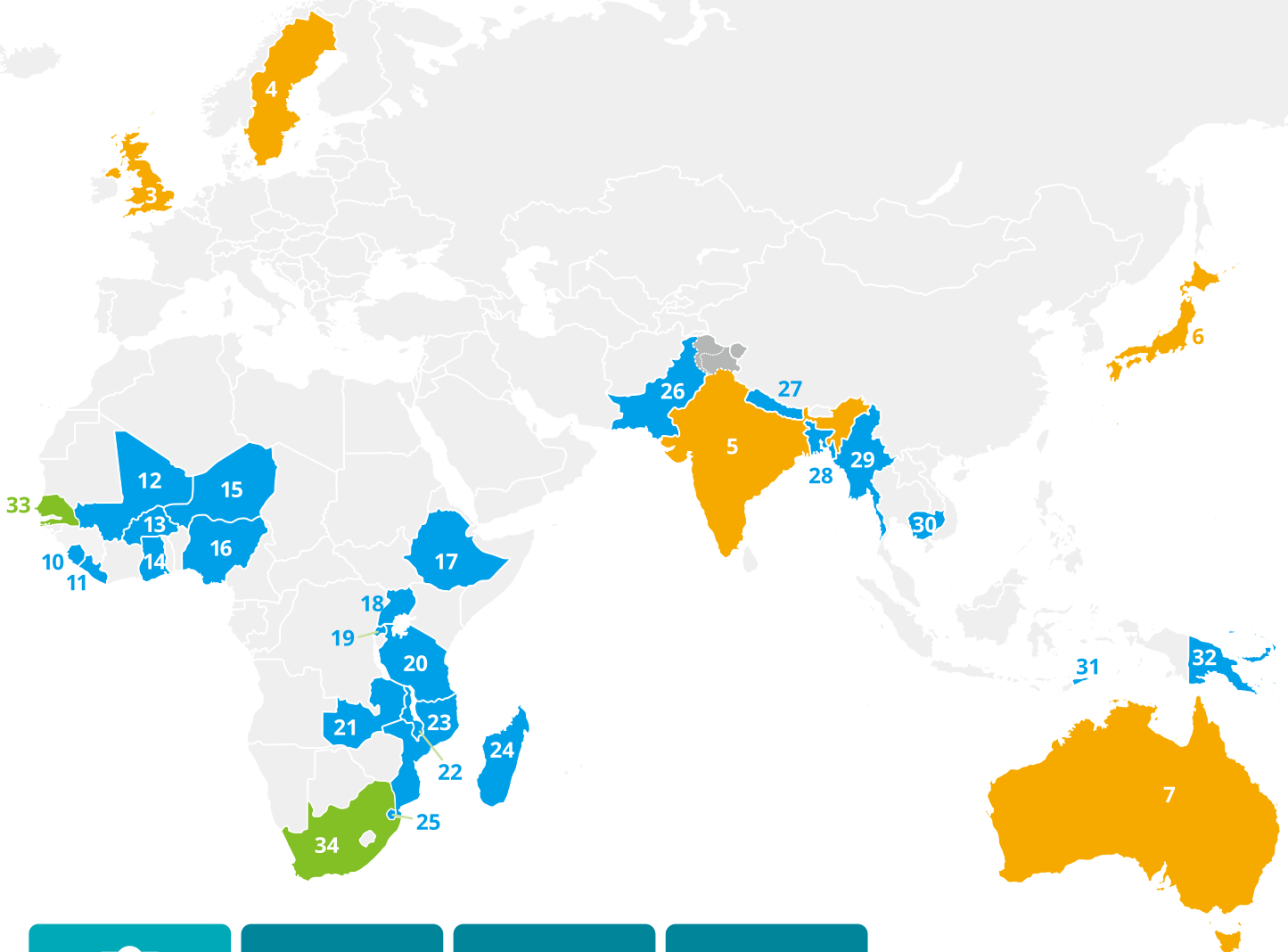


近年、気候変動の影響で地下水が減少し、乾期になると井戸の水が枯れてしまう地域が増えています。ウォーターエイドは、近年深刻な水不足に直面しているインドの各地で地下水涵養に力を入れています。雨水を手掘り井戸に流す、雨水タンクからあふれた水や家庭の浴室の水を地下に戻すなど、さまざまなしくみを導入して地下水を増やす努力を行いつつ、これらを「モデル」として現地政府に示しています。



雨水タンク兼地下水涵養設備(インド)

ウォーターエイドの活動国と 2020年度実績



●メンバー国

- 1 カナダ
- 2 アメリカ
- 3 イギリス
- 4 スウェーデン
- 5 インド
- 6 日本
- 7 オーストラリア

●プログラム実施国

- 8 ニカラグア
- 9 コロンビア
- 10 シエラレオネ
- 11 リベリア
- 12 マリ
- 13 ブルキナファソ
- 14 ガーナ
- 15 ニジェール
- 16 ナイジェリア
- 17 エチオピア
- 18 ウガンダ
- 19 ルワンダ
- 20 タンザニア
- 21 ザンビア
- 22 マラウイ
- 23 モザンビーク
- 24 マダガスカル
- 25 エスワティニ
- 26 パキスタン
- 27 ネパール
- 28 バングラデシュ
- 29 ミャンマー
- 30 カンボジア
- 31 東ティモール
- 32 パプアニューギニア

●地域事務所

- 33 セネガル
- 34 南アフリカ



に清潔な水を届けました

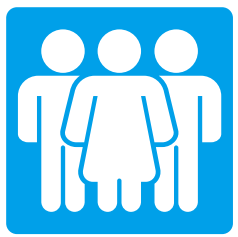


に衛生的なトイレを届けました



が正しい衛生習慣を実践できるようになりました

(注)
数字は2020年4月1日から2021年3月31日までの間に、ウォーターエイドまたはそのパートナーが直接、支援を届けた人数。
家庭に関する人数は、自宅または自宅の近くで、それらを利用できる人数。学校に関する人数は、児童・生徒数および職員の数。保健医療施設に関する人数は、1年間の患者の総数と職員数。
衛生習慣を実践できるようになった人数は、改善された設備を利用、または少なくとも年に3回以上、行動変容のための活動に参加した人の合計数。
ウォーターエイドの働きかけの結果による法改正や、行動の変化、関連知識の蓄積などによる効果は、より大きいものの、この数字には含めていない。





ウォーターエイドの 新型コロナウイルス感染症 対応



診療所に設置された手洗い設備で手を洗う助産師（ネパール）

新型コロナウイルス感染症は、2019年12月にはじめて確認されてから瞬く間に感染が拡大し、いまま世界中の人々の命と健康、生活、経済、社会活動に甚大な被害を与えています。ウォーターエイドは以前から、衛生習慣改善への取り組みの一環として、石けんを使った手洗いの重要性を訴え続けてきました。今回のパンデミックで明らかになったように、公衆衛生を守るには手洗いをはじめとする衛生習慣がきわめて重要です。

ウォーターエイドは長年の経験と専門性を活かし、新型コロナウイルス感染症が拡大しはじめた当初から感染拡大防止の緊急対応支援を実施しました。世界保健機関（WHO）がパンデミックを宣言した2020年3月以降、28か国の活動国で衛生習慣改善の取り組みをさらに拡大し、石けんを使った手洗い、咳・くしゃみの飛沫防止、公共の場でのマスク着用、人が手を触れる場所の消毒、対人距離の確保といった主な衛生習慣の促進に力を注ぎました。2020年月中旬以降は、こうした対策を通常の水・衛生アクセス改善に向けた活動に組み込んで、長期的な視点で感染症に対するレジリエンスの強化に取り組みしました。

具体的には、感染防止に効果的な衛生習慣を促進したことに加え、公共の場に手洗い設備を設置したり、適切な衛生習慣を呼びかけるポスターを掲示したりして、実際にそうした習慣が促されやすい環境の整備に取り組みしました。可能な場合はコミュニティでの活動も行いながら、基本的には人の接触を避けてソーシャルメディア、デジタルメディア、マスメディアなどを活用し、音声とビジュアルを駆使して人々の意識と行動の変化を促すことで、手洗いなどの衛生習慣が当たり前のこととして日常生活に根付くようにしました。また、ますます高まる水・衛生アクセスの重要性についても世界の注目を喚起したほか、各国政府の衛生に関する政策改善・実施を支援しました。

パンデミックの状況は国ごとに異なるため、現地の事情や感染拡大の波に応じて適切かつ柔軟に対応していく必要があります。また、危機の発生時に最も被害を受けやすいのは、社会から取り残されている人たちです。ウォーターエイドはそれを十分に踏まえううえで、新型コロナウイルス感染症の拡大を阻止するための活動に、1年を通じて注力しました。

人との接触を避けつつ大規模な衛生キャンペーンを実施



ウォーターエイドは新型コロナウイルス感染症の拡大当初から、人との接触がないソーシャルメディア、デジタルメディア、マスメディアなどを最大限に活用して感染対策に取り組んできました。従来のプログラムやキャンペーンをこうしたメディア向けにアレンジし、各国政府機関とも連携しながら、各国で大規模な衛生習慣改善の活動を実施しました。

● バングラデシュ

Facebook、Twitter、Instagramなどで動画を使った衛生習慣改善キャンペーンを展開するとともに、学校や病院にもポスターを掲示。オンラインキャンペーンでは2,070万人に情報を伝え、一致団結した取り組みの必要性を訴えました。

● ザンビア

「清潔にして命を守ろう」というスローガンのもと、650万人を対象とした大規模なキャンペーンを立ち上げました。有名アーティストやアスリートが手洗いを呼びかけるプロモーションビデオも制作し、ソーシャルメディアや国営テレビで公開しました。



有名アスリートを起用して、感染防止に重要な5つの衛生習慣を訴求した動画シリーズ「パワー・オブ・ファイブ」

● ナイジェリア

以前から衛生習慣の改善を促進するために実施していた「クリーン・ナイジェリア」キャンペーンを継続しつつ、石けんを使った手洗いなど、新型コロナの拡大防止に不可欠な対策を各種メディアで250万人以上に呼びかけました。

● ルワンダ

若者たちと一緒に制作したラジオドラマを通じて、手洗い習慣や衛生設備が感染防止にどれほど役立つかを訴えました。メディアを活用して900万人を対象とした全国的な感染防止キャンペーンも実施しました。



ラジオドラマを制作・放送して、正しい衛生習慣の実施を促進

● インド

感染拡大が始まった4月、9日間限定の集中的な感染防止キャンペーンを英語とインドの6言語で展開。デジタル画像、イラスト、音声、ビデオを存分に活用して、衛生習慣の改善を呼びかけるメッセージを700万人に届けました。

● モザンビーク

広告宣伝車を使った移動型のキャンペーンを実施。首都マプトでは、大型スクリーンを搭載したトラックを走らせて、音声とビジュアルで19万人以上に手洗いなどの衛生習慣の改善を呼びかけました。



大型スクリーンを載せて地域を走る車。音声とビジュアルを使い、手洗いなどの正しい衛生習慣を発信

● タンザニア

家庭、学校、コミュニティの衛生環境を改善して感染症の拡大を阻止するため、タンザニア政府が主導する全国的な衛生習慣改善キャンペーンの実施をサポート。740万人に向けて、感染予防の衛生対策を推進しました。



衛生習慣の改善を支える画期的な技術

感染対策には手洗いが重要とのWHOの提言を受け、多くの国が公共の場などに手洗い設備を設置しています。一方、上下水道のない地域などでは、こうした設備の設置は容易ではありません。ウォーターエイドは画期的な技術やアイデアを取り入れ、各国の現地事情に応じて手軽に導入できる手洗い設備を設計・制作しました。障害の有無にかかわらず誰もが利用しやすいインクルーシブな手洗い設備も開発。長期的な利用を見込んで各活動国で設置が進んでいます。

手を触れずに利用でき、高さも調節可能な手洗い設備(ネパール)



WaterAid/ Mani Karmacharya

● バングラデシュ

バス停、鉄道駅、市場、ショッピングモールなどの公共施設に無料の手洗い設備を設置して手洗いを促進しました。また、地理的な状況や設置スペース、アクセシビリティ、コストを見比べて、どの技術を用いた手洗い設備を選択すればよいか分かるマニュアルも作成しました。さらに、現地政府と連携して移動式手洗い設備を開発し、2020年12月より運用を開始。液体せっけんや水を入れたタンク、シンクを備えた10基が首都ダッカの人口密集地域を巡回し、約2か月間で16万人が利用しました。



WaterAid Bangladesh
移動式手洗い設備

● パパニューギニア

身近な材料で石けんや手洗い設備を作る方法について、現地の人々を対象にトレーニングを実施。新型コロナの影響で物流やサプライチェーンが滞っても、感染防止に不可欠な手洗いが行えるようにしました。

● リベリア

モンロビア・ロバーツ国際空港に手洗い設備を設置。ダブルシンク設計で隣の人との距離を確保しつつ、蛇口に手を触れずに利用できるこの設備で、入国した人がすぐに手を洗えるようにしました。



WaterAid
空港に設置した手洗い設備

● ザンビア

車椅子や松葉杖の利用者も利用可能なユニバーサルデザインの手洗い設備を開発し、障害のある子供たちの施設に導入しました。また、2020年3月から「ここでお待ちください」というステッカーを貼って対人距離を保つキャンペーンを実施。このステッカーは、スーパーや銀行などの公共スペースでも使用されました。



WaterAid Zambia
車いすで利用可能な手洗い設備

立つ場所を促すために床に設置したステッカー



● インド

給水設備や公衆トイレ周辺の地面にチョークで円を描いて、列に並ぶ人たちが安全な対人距離を保てるようにしました。ウッタル・プラデシュ州では、約600台のオートリキシャに手洗い設備を取り付け、移動中の人々がこまめに手洗いするよう促しました。



WaterAid India
対人距離を保ちながら給水設備の列に並ぶ住民

● カンボジア

工場で働く人たちの手洗い習慣を促進するために、代表者グループが工場にある材料で手洗い設備を作ったり、適切な衛生習慣を周知するビデオを作成したりできるようサポートしました。



すべての人に届くインクルーシブな衛生習慣の促進を

水・衛生設備の利用しやすさは、地域、収入、障害の有無、ジェンダーなどによって異なることがわかっています。こうした格差が新型コロナウイルス感染症の衛生対策にまで表れるようなことは、決してあってはなりません。以前から水の確保に苦勞していた人々の負担が手洗い回数の増加でさらに大きくなったり、脆弱な立場に置かれている人々が、感染予防に関する情報にアクセスできなかったり、必要な支援から取り残されたりすることがないように、ウォーターエイドはさまざまな団体と協力し、細心の注意を払いながら、インクルーシブな衛生促進支援を実施しました。

● 南アフリカ

女性や女の子、年少者、障害のある人たちなど、脆弱な人々を対象とした新型コロナ関連情報集を作成。また、シェルターで生活する女性や女の子を対象に、月経衛生管理の一環として衛生製品の配布などを行いました。さまざまな女性支援機関・団体とも連携し、ソーシャルメディアを使った共同キャンペーンなども実施しました。

● ザンビア

ラジオ番組用に、正しい衛生習慣を歌った曲の制作に参加しました。また、2つのラジオ番組でZAPD(ザンビア障害者機関)を取り上げ、障害のある人に向けて衛生習慣の理解を促進しました。

手洗い設備のテクニカルガイドを作成・公開

ウォーターエイドは、プロジェクトで得た知見をレポートやマニュアルとして公開し、現地政府や他のNGO、国際機関などが参照できるようにしています。新型コロナウイルス感染症対応としてウォーターエイドが開発・設置した手洗い設備の情報も積極的に発信しました。2020年8月には、学校や保健医療施設など公共のスペースに適した手洗い設備の制作・設置手順や図面をまとめた「Technical Guide for handwashing facilities in public places and buildings(公共スペース・建物の手洗い設備に関するテクニカルガイド)」を公開。バングラデシュでは、公共スペース用・家庭用のさまざまなタイプの手洗い設備をまとめたマニュアルを作成・公開しました。



WaterAid Nigeria
ナイジェリアで設置した手洗い設備(マニュアルより)

● バングラデシュ

障害のある人々に新型コロナウイルス感染症に関する情報が伝わるように、手話通訳の入った動画シリーズを制作しました。北ダッカ、南ダッカ、チッタゴン、クルナでは、67か所のスラムで衛生習慣の改善を促進。また、スラム居住者をサポートするモバイルアプリを開発し、居住者のデータ収集、健康状態の確認、感染者の早期発見に役立てました。



WaterAid Bangladesh
手話通訳の入った動画で正しい手洗い方法を紹介



WaterAid
拡声器を使って新型コロナの感染防止メッセージを発信

● シエラレオネ

30か所のコミュニティで、昔ながらのタウンクワイヤー(公的な情報を人々にアナウンスして回る“町の触れ役”)に正しい衛生習慣を広める役目を担ってもらい、現地の言語で最新情報を伝えたり、質問に答えたりしてもらいました。また、支援の届いていない地域に手洗い設備や衛生製品を届ける活動も行いました。

● エスワティニ

石けんを使った手洗いの重要性をわかりやすく示すため、手話の動画を制作しました。子供向けの短編アニメも作り、新型コロナに対する理解と手洗いの習慣化を促しています。このアニメは国営テレビで放送され、ソーシャルメディアでも公開されています。



他セクターと連携した統合的な衛生習慣の促進

人々の衛生に関する行動を変えるには、水・衛生分野だけでなく、保健、教育、栄養などさまざまな分野や民間セクターと連携した包括的な取り組みが必要です。ウォーターエイドは、感染拡大の場となりやすい学校や保健医療施設、工場等において手洗いを広めたほか、定期予防接種プログラムに衛生習慣の啓発を組み込むなど、他セクターと積極的に連携しました。

● バングラデシュ

ウォーターエイドは、金融グループHSBCの支援を受けて、既製の工場における水・衛生プロジェクトを進めています。新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、工場の入り口などに手洗い設備を設置したほか、同工場で勤務する人々を対象に正しい衛生習慣を学ぶセッションを実施。安心して工場の操業を続けることが可能になりました。



工場働く人たちが衛生指導を受けたあとに手洗いを実践

● ブルキナファソ

ブルグ県とクリトンガ県の学校に手洗い設備156基と石けん312個を寄贈し、衛生習慣の改善を促進しました。この寄贈によって31校の小学校と8校の中学校に手洗い設備と石けんが行きわたり、生徒と先生が適切な衛生習慣を実践し、安心して授業ができるようになりました。



学校に寄贈される手洗い設備

● カンボジア

感染拡大初期に、コンボンチュナン州全域で医療機関における手指衛生の状況を評価し、実態とニーズの把握を行いました。州保健局は、現状と適切な衛生状態とのギャップを埋めるための計画を策定し、コロナ禍においても通常の医療機関利用者が安全に受診・治療できるように努めました。

● ネパール

以前より、ネパール保健省の家族福祉局と連携し、定期予防接種プログラムに衛生習慣促進を組み込む活動を展開してきました。この衛生習慣促進に、新型コロナウイルス感染症にかかわる衛生行動の啓発を新たに追加。衛生指導研修を受けた16,000人のヘルスワーカーが各地の定期予防接種会場で衛生セッションを実施し、生後15か月未満の子供を持つ保護者65万人に正しい衛生行動に関するメッセージを届けました。



子供たちが予防接種を受ける前に、衛生指導の集会に参加する母親たち。

● ザンビア

スタンダードチャータード銀行の支援を受け、閉鎖していた学校を再開する際に、子供たちが感染予防を講じることができるよう、ルサカの学校5校に手洗い設備を提供しました。衛生習慣改善キャンペーンでは、保健医療施設の衛生環境に重点を置き、自分や周りの人たちを守って感染拡大を防止できるように、正しい衛生習慣の実施を促しました。

国別レポート 新型コロナウイルス感染症対応の活動事例



新型コロナウイルス感染症の拡大当初から、ウォーターエイドはすべての活動国で迅速に手洗い等感染対策の啓発や手洗い設備の設置などの活動を実施してきました。なかでも特に大きな成果をあげているネパールとマラウイの活動を、最初の3か月間に注目してご紹介します。

ネパール

ネパールで暮らす人々の半分は自宅に手洗い設備がなく、保健医療施設の54%は手洗いに必要なものが揃っていません。そこでウォーターエイドは、2020年3月に全国的なロックダウンが宣言された後、すぐに公共の場や保健医療施設に手洗い設備を設置する活動に着手しました。

入念に場所を選んで設置された手洗い設備は、2つのペダルを踏めば水と液体石けんが出るしくみになっているため、蛇口に手を触れる必要がありません。水が自動的に止まる構造なので、使う水も通常の手洗い設備より少ない量で済みます。設計のバリエーションはたくさんありますが、いずれも公共の場に設置しやすく、下水設備に直接つないで排水することもできます。設置後しばらくして50基の利用状況を調査したところ、全体で1日平均14,335人が利用しており、病院にも設置の要望が高いことがわかりました。

こうした手洗い設備がどれほどの効果を発揮できるかは、維持・管理の良さと、市民の衛生意識の高さにかかっています。そのためウォーターエイドは初期段階からさまざまなメディアやポスターなどを活用し、衛生習慣の改善を呼びかけました。この衛生習慣改善を促進する取り組みは、手洗い設備をさらに広いエリアに増設する活動とともに継続しています。



バス停にある手洗い設備を足で操作して手を洗う通行人(ネパール、ラリトプール)



世界遺産のボダナート前に設置された手洗い設備で手を洗う警備員(ネパール、カトマンズ)

マラウイ

水を利用できないために病気やウイルスから身を守れない人が、マラウイには多くいます。ウォーターエイドはこの問題に対処するため、ほかのNGOと協力しながら政府に働きかけて、水道事業者が資金不足に陥ることなくパンデミックに対応し、人々に水を供給し続けられるよう支援しました。

首都リロングウェでは市議会に対し、リソース計画の策定、水・衛生設備のニーズの把握や優先順位付けなど、具体的なサポートを行う一方で、マラウイ政府に対しても、保健医療施設や学校などの水・衛生設備を改善するよう働きかけました。

また、医療従事者と患者を守るために欠かせない手洗い設備が診察・治療する場所のない保健医療施設が約3分の1もあることを受けて、その改善にも重点的に取り組み、100か所以上の保健医療施設に手洗い設備と衛生製品(石けん、殺菌・消毒剤、個人保護具など)を提供しました。帰国者などを受け入れる隔離センターについても、保健省に働きかけて水・衛生状態の改善に取り組みました。



市議会に衛生必需品を引き渡す際に、リロングウェ市長と「肘タッチ」であいさつするウォーターエイド・マラウイの現地代表マーシー・マッソ(マラウイ、リロングウェ)



病院に手洗い設備と衛生製品を提供した際に、正しい手洗い方法を実演(マラウイ、ンチン)

「すべての人に
清潔な水を」を
実現する
「モデル」をつくる



ウォーターエイドが
設置した貯水タンク
(エスワティニ)

WaterAid/ Thandeka Ngobe

コロナ禍であろうとなかろうと、清潔な水が健康的な生活に不可欠であることは変わりません。清潔な水がなければ、安心して水を飲むことも、手を洗うことも、家庭や保健医療施設の衛生状態を保つこともできません。ウォーターエイドが活動する地域では、給水インフラがあったとしても、機能していないことがよくあります。その原因は、予算不足、人材不足、設備の老朽化、水資源の枯渇などさまざまです。こうした課題を解決するため、ウォーターエイドは各国でプロジェクトを実施し、そのプロセスや成果を水・衛生課題解決の「モデル」として現地政府や諸機関に提案しています。

エスワティニ王国ホホ県:太陽光発電を利用した給水システムを導入

南部アフリカに位置するエスワティニ王国(旧スワジランド)。約116万人が暮らすこの国では、3人に1人が清潔な水を使えず、5人に2人がトイレを利用できません。ホホ県のムポフコミュニティでは、地下水を水源とする給水システムを利用してきましたが、人口増加と気候変動の影響で10年ほど前から水が出なくなり、ムポフ川の水をそのまま使うしかありませんでした。

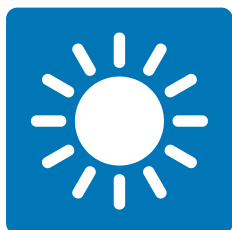
このコミュニティの住民496人が清潔な水を利用できるように、ウォーターエイドは2020年4月~12月、給水システム設置プロジェクトを実施しました。水源として井戸を新しく掘削し、井戸の水が太陽光発電のポンプで高所の貯水タンクに運ばれ、そこから重力によって7地点の水くみ場に配水されるようにしました。自宅の近くに水くみ場ができたことで、障害者や高齢者含むすべての人が清潔な水を確保できるようになっただけでなく、長時間歩いて水くみをしていた女性や子供の負担も大幅に軽減されました。給水システムの維持管理は既存の水管理委員会が担い、住民の同意を得て、各世帯から毎月分担金を集めることになりました。集まった資金は同委員会が責任を持って管理し、給水システムの維持管理に役立てていきます。



設置したソーラーパネル

ウォーターエイドは今後、このプロジェクトを好事例として、太陽光発電を利用した持続可能な給水システムの横展開を政府に働きかけていく予定です。

*本プロジェクトは、栗田工業株式会社のご支援により実施しました。



インド アンドラ・プラデシュ州チットウル県:村水衛生委員会を強化する

インドには、干ばつによる水源の枯渇、水資源保全の遅れ、水道管の不備、水質汚染など多くの水問題があり、2030年までに人口の約40%、5億人以上が飲料水を手に入れないとの予測もあります。

この状況を受けて、インド政府は近年、各地で給水設備の設置・修復、雨水の貯留、地下水保全の取り組みを強化しています。この取り組みを牽引するのは、各村に設置された「村水衛生委員会」。この委員会は、各村の水・衛生に関する課題の把握・分析、住民参加型による改善計画の策定、予算の確保、計画の実施といった役割を担っています。ところが、実際にはこの委員会が機能していない、計画を作成できない、どのような給水設備を作ればよいかわからないなどの理由から、村の水問題が解決されないケースが多くあります。

ウォーターエイドはインド各地で、この村水衛生委員会の強化に取り組んでいます。アンドラ・プラデシュ州チットウル県は、干ばつに見舞われやすく、地下水が急激に減少している県の1つ。住民は、地下水を水源とする水道または手押しポンプ式井戸を利用していましたが、水が不足しがちで、特に雨が少ない時期には何日も水が出ないこともありました。また、水道や手押しポンプ式井戸自体が、破損・故障によって使用できないことも多くありました。

ウォーターエイドは、このような状況をうけて、村水衛生委員会が主体的に、住民と連携しながら、地域の水問題を解決する事例を作っていくとしています。チットウル県では、初めに、村水衛生委員会のメンバーが、委員会の役割や水・衛生の重要性について理解するよう、トレーニングを実施。続いて、村水衛生委員会と住民が参加するワークショップを開催し、給水設備の現状を地図に記して分析し、すべての住民が清潔な水を得られるようにするための改善計画を策定しました。

計画に基づき、ウォーターエイドは、村水衛生委員会と住民と協力して、政府が近隣で新設する井戸の水を、多くの家庭に届けるためのパイプを敷設。そして故障した手押しポンプ式井戸30基を修理し、この地域の計5146人が清潔な水を利用できるようになりました。また、地下水を利用している手押しポンプ式井戸などの給水設備が持続可能になるよう、地下水涵養のしくみも導入しました。

各村では、給水設備の維持管理や地下水涵養と節水の促進を担うユース・女性ボランティアも育成。村水衛生委員会メンバー、住民、そしてボランティアメンバーたちが、ウォーターエイドと実施したこのプロジェクトの経験を活かし、自分たちで地域の水問題を解決していくことが期待されます。

*本プロジェクトTOTO水環境基金のご支援で実施しました。



故障したものの修理されていない
手押しポンプ式井戸



村水衛生委員会と住民が参加するワークショップで
給水設備の改善計画を策定



村の給水設備の状況を記した地図



村水衛生委員会と住民が参加するワークショップで
作成した計画に沿って給水設備を設置・修復



完成した給水設備

日本の活動

ウォーターエイドは、水・衛生専門のNGOとして、開発途上国の水・衛生に関する情報発信に力を入れています。



スピーカークラブ

「ウォーターエイド・スピーカークラブ」はオリジナルの教材を使った授業を実施し、途上国の水・衛生の状況やウォーターエイドの活動への関心喚起を目的とする活動を2014年から続けています。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、学校やイベントでの授業機会が減少、「スピーカー講習会」の開催を見送るなど、対面での活動に制限が生じるなか、オンラインで授業を実施できるようにスピーカーが中心となって教材の再開発に取り組みました。11月19日の「世界トイレの日」に開催したウェビナーでは、オリジナル授業のひとつ「もしもトイレがなかったらオンライン版」を実施しました。

出張授業・講演会

2020年度、ウォーターエイドジャパンは、東京都教育委員会の「オリンピック・パラリンピック教育推進支援事業」に協力し、都内2校で出前授業を実施したほか、オンラインでの実施を含め、小学校から大学まで合計9校で授業・講演会を行いました。

墨田区水の循環講座

ウォーターエイドジャパンが事務所を置く東京都墨田区は、雨水活用が活発に行われるなど、水への関心が高い地域です。ウォーターエイドジャパンは、2016年度以来、同区から委託を受けて「墨田区水の循環講座」の企画・運営を担当しています。2020年度も、感染症対策を行いながら国指定重要文化財「旧三河島汚水処分場唧筒場施設」の見学、手賀沼の船上学習や廃食油からせつけんを作る工場の見学など、計6回の講座を実施しました。

ACジャパン支援キャンペーン

ウォーターエイドジャパンは、公益社団法人ACジャパンが実施する支援キャンペーンの支援団体のひとつに選ばれ、2018年7月から、新聞やテレビなどの無償広告枠でウォーターエイドのCMや広告が放送・掲載されました。2020年度のテーマは「命の水、命がけの水」。CMのナレーションは満島ひかりさんが担当してくださいました。

スピーカークラブ 横溝伶音さん(大学4年生)

私が水問題に興味を持ったきっかけは、大学の授業で仮想水の話聞いたことでした。以来、小中学校を中心に、水についてお話する機会をいただけてきました。授業を受けた学校からの感想を読むのは楽しく、「自分ももっと早く水問題を知っていれば…」と毎回思います。今後は、オンラインの良さも活かしながら、より多くの人に水問題を伝えたいです。

徳島県立城西高等学校

本校は、ウォーターエイドの活動に賛同し、これまで文化祭で募金活動を行ったり、「エシカル消費」推進の一環で農業科の生徒たちが生産した商品の売り上げを寄付したりして、生徒たちを中心とした活動に取り組んでまいりました。2020年度には、総合学科の「産業社会と人間」という科目を通して、持続可能な開発目標(SDGs)について学びを深めるために、ウォーターエイドの職員を講師として招き、オンラインで授業を実施しました。参加した生徒からは「当たり前と思っていた水やトイレが想像以上に不可欠なものだと気づいた」、「自分にできることをして困っている人の助けになりたい」という感想が寄せられ、今後の取り組みにもつながる学びとなりました。



手賀沼の船上学習



渋谷駅に掲示されたウォーターエイドジャパンのACポスター

国際デーの取り組み

世界手洗いの日 「#あわあわハイタッチ」キャンペーン

10月15日は、手洗い習慣の大切さに対する関心喚起を目的に制定された「世界手洗いの日」です。ウォーターエイドジャパンは、国際協力機構(JICA)の賛同も得て、「#あわあわハイタッチ」キャンペーンを実施。感染予防のため人との距離をとるように呼びかけられるなか、「バーチャルなハイタッチを通して人々の連帯を」との思いを込めて企画しました。SNSには趣旨に共感した方々の投稿が寄せられ、手洗いの大切さをあらためて訴える機会となりました。



ソーシャルメディアに投稿した「#あわあわハイタッチ」の呼びかけ

世界水の日「Blue for Water」キャンペーン

ウォーターエイドジャパンは、3月22日の「世界水の日」にむけて、世界を青く染めるキャンペーン#Blue4Waterを展開。水の大切さを感じたり、世界の水の問題に想いを寄せるきっかけとなることを目指し、ハッシュタグ#Blue4WaterをつけたSNS投稿を呼びかけたり、世界の水や気候変動に関するウェビナーを開催しました。2020年度は、キャンペーンに賛同した企業や自治体のご協力によって、過去最多となる9か所で建物や地域のランドマークがブルーにライトアップされました。

ライトアップにご協力くださった施設

- アサヒグループ本社ビル(東京都墨田区)
- 東京ビッグサイト(東京都江東区)
- フジテレビ本社ビル(東京都港区)
- さっぽろテレビ塔(札幌市)
- 東北電力ネットワーク(株) 岩手支社マイクロ無線鉄塔(盛岡市)
- 神戸ハーバーランドumie モザイク大観覧車(神戸市)
- 岡山城(岡山市)
- 稲佐山山頂電波塔3塔(長崎市)
- 別府タワー(大分県別府市)



ブルーにライトアップされたフジテレビ本社ビル

メディア掲載

2020年度は、世界トイレの日や世界水の日、世界の水・衛生の現状を伝える報告書を公開・発信したほか、新型コロナウイルス感染症に関連して、開発途上国の水・衛生の現状を伝えました。下記は、2020年度のメディア掲載・出演の一部です。

- | | |
|-----|--|
| 4月 | 朝日新聞デジタル他『途上国での新型コロナウイルス感染拡大に歯止めを』
Yahoo!ニュース『コロナ感染拡大と食糧、水、気候変動の関係』 |
| 6月 | 産経新聞地方版・オンライン他『コロナ防ぐ「手洗いの水」を 途上国に簡易設備支援 NPO職員「現状知って」』 |
| 8月 | ニュースサイト Sustainable Japan『【対談】水・衛生の分野で世界的な影響力を持つ国際NGOウォーターエイド〜企業パートナーシップの状況〜』
ラジオ TOKYO FM『Think Japan』出演 |
| 10月 | 国際協力ジャーナル10月号『気候変動にも対応した水・衛生の改善へ』 |
| 11月 | 東洋経済オンライン他『トイレのない人々の健康と生活が気候変動でより深刻に〜世界トイレの日でウォーターエイドが報告書』
ラジオ J-WAVE『ENEOS FOR OUR EARTH〜ONE BY ONE』出演 |
| 3月 | 読売新聞『SDGs教材共創プロジェクト中高生向けSDGs教材 SDGs TODAY』 |

アドボカシー

皆さまのご協力によって、ウォーターエイドは2020年、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐためには、水・衛生、特に手洗いへの取り組みが重要であることを、国際社会に向けて発信し続けることができました。



ウォーターエイドは自分たちだけで状況を変えていくではありません。政府などの政策決定機関が政策や優先分野を変えたほうが、何百万人も多くの人々に水と衛生を届けることができ効果が大きいと、ウォーターエイドは政府・諸機関の意思決定に影響を与えるように強く働きかけを行っています。

ウォーターエイドはこれまで40年間、常に水・衛生の重要性、そしてさらなる取り組みの必要性を発信してきました。2020年、ウォーターエイドは、新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、さらにその発信を強化。これまでのプロジェクトの成果や調査などをもとに、水と衛生が感染症の拡大を防ぐために重要であること、そしてどのようなアプローチが最も効果的であるかを、根拠をもって発信しました。

そのなかの1つが、保健医療施設における水・衛生のアクセスです。ウォーターエイドは2015年から、多くの保健医療施設に清潔な水を利用できる給水設備や衛生的なトイレがないこと、それによって手洗いなどの衛生行動が実践されていないことを提起してきました。2019年5月、世界保健総会では、すべての保健医療施設で清潔な水が利用できるようにすることが決議されましたが、それ以降も、保健医療施設の水・衛生の改善は非常に限定的なものでした。



上: 医療器具の洗浄に不衛生な水を使うしかない(モザンビーク、ムロタナ保健センター) 2018年撮影
左: 保健センターの敷地内に給水設備がないため、外に水くみに行くスタッフ(マリ、タロ保健センター) 2018年撮影



「健康と栄養のための手洗い」ウェビナー

2020年、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、ウォーターエイドは各国で新型コロナウイルス感染症対応のプロジェクトを拡大するとともに、こうしたアドボカシー活動も強化。2020年を通じて、手洗いなどの衛生習慣の促進、そして保健医療施設の水・衛生の改善をアドボカシーの優先分野に位置づけ、5月に開催された世界保健総会をはじめ、さまざまな機会を使って国際社会や各国政府に向けて発信を続けました。

日本では、団体のウェブサイトやメディアなどを通じて、開発途上国の手洗いの現状を発信。また、2021年3月には、2021年後半に日本政府が「東京栄養サミット2021」を開催する予定であることを受け、新型コロナウイルスや栄養と手洗いなどの衛生習慣の連携について考えるウェビナー「健康と栄養のための手洗い」(Hygiene for Health and Nutrition – How to Increase Momentum on Hygiene for Health and Nutrition)を開催しました。

企業・団体との連携

ウォーターエイドを支えてくださった皆さま



2020年度も、ウォーターエイドは多くの企業・団体の皆さまと連携することにより、水とトイレ、衛生習慣へのアクセスを改善し、多くの人々の生活を変えることができました。皆さまの温かいご協力に心より感謝いたします。

- アトラスコプロ株式会社
- アビームコンサルティング株式会社
- エスパリアル合同会社
- elastic 株式会社
- 株式会社エルピー
- 花王ハートポケット倶楽部
- 花王株式会社
- 株式会社キュービックエスコンサルティング
- 栗田工業株式会社
- 株式会社ケアメディカル
- 資生堂ジャパン株式会社
- 株式会社ジーアイビー
- 株式会社達心
- 株式会社電巧社
- TOTO株式会社
- 株式会社ドゥ・ハウス
- 株式会社ナック クリクラブビジネスカンパニー
- 株式会社ハリカ
- 株式会社パー・ジェー・シー・デー・ジャパン
- 三井化学株式会社

アビームコンサルティング株式会社

2013年よりウォーターエイドの水・衛生プロジェクトに毎年ご寄付をいただいております。2020年度はインドのプロジェクトにご寄付いただきました。2016年からは、ご寄付に加えてプロボノのご支援もスタート。同社の本業であるコンサルティングを通じて、RPAを用いた業務効率化の実現や、団体の広報や運営などに関するアドバイスもいただいております。

株式会社エルピー

2017年度から継続してウォーターエイドの活動にご寄付いただいております。2020年度は、「大人の紅茶」シリーズと無糖茶「香りごこち」シリーズのパッケージ側面に、ウォーターエイドの活動紹介を掲載。商品を通じて、多くの方にウォーターエイドを知っていただくきっかけとなりました。2021年3月からは、毎月第3水曜日に、水に関するコラムとウォーターエイドの紹介を同社のTwitterに投稿していただいております。

株式会社ジーアイビー

コインランドリーを全国展開している株式会社ジーアイビー。SDGsに向けた取り組みの一環として、2020年3月1日から1年間、「ブルースカイランドリー」で、1回洗濯されるごとに1円がウォーターエイドに寄付されるキャンペーンを実施していただきました。

資生堂ジャパン株式会社

「Life with Beautyプロジェクト」の一環として、持続可能な開発を加速させるための行動を呼びかける「SENKA Water Giving Campaign」を実施。東・東南アジア6か国・地域において、洗顔している動画に「#5scoopschallenge」というハッシュタグをつけてソーシャルメディアに投稿するよう呼びかけ、その「いいね」「シェア」数に応じてウォーターエイドにご寄付いただきました。

タイガー魔法瓶株式会社

2020年7月に「タイガーボトルサイト」をオープン。人権・健康・環境に配慮した製品づくりに取り組んでいます。「清潔な水や衛生環境が整うことで、世界中の多くの人たちの、健康や人権を守ることにつながる」との思いから、11月、ウォーターエイドをご支援いただくドネーションプログラムが開始されました。



タイガー魔法瓶株式会社

寄付型自動販売機によるご寄付

特定非営利活動法人寄付型自動販売機普及協会のご協力のもと、自動販売機の売り上げがウォーターエイドへの寄付につながる「寄付型自動販売機」を、ますます多くの企業・団体様が導入していただいております。その数は全国で約27台(2021年3月末時点)になりました。



WaterAid Japan

2020年度会計報告

活動計算書

収益		費用	
受取会費	30,000	事業費	
受取寄付金	174,615,076	広報・開発教育	29,407,749
事業収益	2,205,184	アドボカシー	5,956,912
その他収益	1,371,050	水・衛生事業 / 募金	95,317,000
合計	178,221,310	管理費	5,356,288
		法人税等	70,000
		合計	136,107,949

貸借対照表

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金預金	60,763,655	未払金	5,104,253
未収収益	1,900,000	預り金	571,053
前払費用	187,000	未払法人税等	70,000
仮払金	49,616	負債合計	5,745,306
固定資産			
長期前払費用	109,084	正味財産の部	
敷金	1,683,000	前期繰越正味財産	16,838,688
保証金	5,000	当期正味財産増減額	42,113,361
資産合計	64,697,355	正味財産合計	58,952,049
		負債及び正味財産合計	64,697,355

ウォーターエイドジャパンは、2020年度の会計等について以下の監査を受けています。

- 監事による業務および会計の監査
- 高野寛之公認会計士事務所による財務諸表の監査

ウォーターエイドジャパンについて

ウォーターエイドは2012年、日本法人設立の準備を開始しました。2013年2月、ウォーターエイドジャパンとして、東京都より特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を受けて、法人としての歩みを始めました。ウォーターエイドが日本法人を立ち上げた理由の1つに、日本が水・衛生分野において、世界で最大の援助供与国であることがあります。世界の水・衛生の改善に大きな役割を果たしてきた日本から、水・衛生の重要性について発信していく必要がある—そう考えて日本法人は設立されました。

概要

- 法人設立:2013年2月15日
- 認定NPO法人認定:2014年12月19日
*ウォーターエイドジャパンにご寄付をいただく個人・法人の皆さまは、税制優遇を受けていただくことが可能です。
- 常勤職員数:4名

活動

- 世界の水・衛生問題について関心喚起をするための情報発信
- 世界の水・衛生問題に関するアドボカシー・政策提言
- 途上国における井戸建設、トイレ建設、衛生教育などの水・衛生事業、およびそのための募金活動

ウォーターエイドジャパン 役員

理事長 小寺 清

元世界銀行・IMF 合同開発委員会事務局長、元国際協力機構(JICA) 理事

理事 青沼 愛

一般社団法人鎌倉サステナビリティ研究所 代表理事

理事 玉井 孝明

元東京海上ホールディングス株式会社取締役副社長

理事 夫馬 賢治

株式会社ニューラル代表取締役 CEO

理事 安江 真理子

公益財団法人 中曽根康弘世界平和研究所主任研究員

理事 山村 寛

中央大学理工学部人間総合理工学教授

理事 和仁 亮裕

モリソン・フォスター法律事務所 弁護士

監事 岩本 昌子

岩本法律事務所 弁護士

(2021年6月30日現在)

ウォーターエイドの活動を支えているのは、皆さまからのご支援です。

毎月のご寄付(定額)

毎月、ご指定の金融機関の口座またはクレジットカードから、一定額を継続してご寄付いただくことで、途上国の人々に清潔な水と適切なトイレを届けるための活動を長期的に支えていただけます。継続してご支援をいただく皆さまには、ニューズレター「Oasis」(年3回発行)や年次報告書をお送りします。

初めてウォーターエイドジャパンへご寄付いただく方で、郵便局の払込取扱票以外でお振込いただく場合は、お名前、ご住所をお知らせください。ご連絡のない場合は、領収書をお送りすることができません。ご了承ください。

■郵便振替によるご寄付

記号番号 00100-0-359375
加入者名 ウォーターエイドジャパン

■金融機関からお振込によるご寄付

ゆうちょ銀行 〇〇八(ゼロゼロハチ)店
普通 4057566
特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン

■クレジットカード決済によるご寄付

毎月のご寄付、単発のご寄付がお選びいただけます。
<https://www.wateraid.org/jp/get-involved/donation>





特定非営利活動法人
ウォーターエイドジャパン(認定NPO法人)

〒130-0014 東京都墨田区亀沢2-12-11 PAX21 301号

Tel: 03-6240-2772 / Fax: 050-3488-2040

www.wateraid.org

[f/WaterAidJapan](https://www.facebook.com/WaterAidJapan) [t/WaterAidJapan](https://twitter.com/WaterAidJapan)

